

令和3年度

全国学力・学習状況調査結果について

—川崎市の児童生徒の学習・生活の状況—



# 令和3年度全国学力・学習状況調査結果について

－ 川崎市の児童生徒の学習・生活の状況 －

## ○調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

## ○調査の実施状況 ※調査の種類により調査人数は若干変動

小学校 114 校 中学校 52 校 特別支援学校 1 校 (小学部・中学部)

小学校 第6学年 約 11,690 名 中学校 第3学年 約 9,050 名

## ○児童生徒に対する調査

〈教科に関する調査〉 小学校調査 - 国語・算数 中学校調査 - 国語・数学

教科に関する調査は、次の①と②を一体的に出題している。

①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等

②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

〈質問紙調査〉 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査

本年度の主な調査項目・挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感等 ・ICTを活用した学習状況

・主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況

・学習に対する興味・関心や授業の理解度等

・新型コロナウイルス感染症の影響

## ○学校に対する質問紙調査

学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する質問紙調査

## ○調査実施日 令和3年5月27日(木)

## ○教科に関する調査結果の概要

### 1 教科に関する調査の平均正答数(問)と平均正答率(%)

小学校調査				
令和3年度	国語(14問)		算数(16問)	
	正答数(問)	正答率(%)	正答数(問)	正答率(%)
川崎市	9.3	67	11.7	73
全国	9.1	64.7	11.2	70.2

中学校調査				
令和3年度	国語(14問)		数学(16問)	
	正答数(問)	正答率(%)	正答数(問)	正答率(%)
川崎市	9.3	67	9.4	59
全国	9.0	64.6	9.1	57.2

※川崎市、全国の値は、公立学校の調査結果です。

※文部科学省の公表と同様に、政令指定都市の平均正答率は整数値で表しています。

### 2 全体の傾向

上記1のいずれの項目の平均正答率も全国に対して±5ポイントの範囲内にあり、本市の結果は全国とほぼ同程度の結果であるといえる。

## ① 教科に関する調査

「教科に関する調査」の校種、教科ごとの概要は以下に示す通りである。

全体の傾向については、領域、設問ごとに川崎市の正答率と全国とを比較して、「△」「▼」印を付けている。（△＝上回った主な設問 ▼＝下回った主な設問）

結果の概要については、内容・領域等ごとに個々の設問について特徴的なものを取り上げて、「◇」「◆」印を付けている。（◇：比較的にできている点 ◆：課題があると考えられる点）

### 小学校 国語

#### ○調査問題の内容

学習指導要領に示されている〔知識及び技能〕、〔思考力、判断力、表現力等〕の内容に基づき、その全体を視野に入れながら中心的に取り上げるものを精選して出題している。なお、小学校第5学年までの内容となるようにしている。

- (例) ■ 津田梅子について調べて紹介するスピーチで、どのような構成で話しているか、適切なものを選択する。
- 面ファスナーについて書かれた【資料】を読み、文章と図表とを結び付けて必要な情報を見付け、面ファスナーのくつつく仕組みを書く。
  - 自分の考えが伝わるように、反対する理由を明確にして、【文章の下書き】の一部分を詳しく書き直す。
  - 【文章の下書き】の中の言葉を、漢字を使って書き直す。

#### ○全体の傾向

##### ・学習指導要領の内容ごとの傾向

平均正答率は、〔思考力、判断力、表現力等〕の「話すこと・聞くこと」では81.9%、「書くこと」では62.4%、「読むこと」では53.6%、〔知識及び技能〕の「言葉の特徴や使い方に関する事項」では66.8%である。「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」において全国を上回り、特に「読むこと」は5ポイント以上、上回った。「言葉の特徴や使い方に関する事項」においては全国を下回った。

##### ・設問ごとの傾向

全14問中9問で平均正答率が全国を上回った。全国との差が5ポイント以上である設問は以下のとおりである。

- △1二 スピーチでその資料を使った理由の説明として適切なものを選ぶ(79.9%、+5.0)
- △2一 資料の文章が何についてどのように書いてあるか、の説明として適切なものを選ぶ(82.7%、+5.1)
- △2三 資料を読み、何をヒントにどのような仕組みの面ファスナーを作り出したのかをまとめて書く(40.8%、+6.4)
- △2四 資料を読み、面ファスナーがどのように使われているかをまとめて書く(37.3%、+7.6)
- △3一 文章の下書きの構成についての説明として適切なものを選ぶ(70.6%、+5.8)
- ▼3三(1)ウ 「つみ重ね」の下線部を、漢字を使って書き直す。(49.3%、-5.1)
- ▼3三(1)エ 「げんいん」の下線部を、漢字を使って書き直す。(73.8%、-5.2)

#### ○学習指導要領の内容ごとの結果の概要

##### 話すこと・聞くこと〔思考力、判断力、表現力等〕

- ◇1一 目的に応じ、話の内容が明確になるようにスピーチの構成を考えることについては、相当数の児童ができています。(82.0%、+4.5)
- ◇1三 目的や意図に応じ、資料を使って話すことについては、相当数の児童ができています。(83.7%、+2.7)

### 書くこと〔思考力、判断力、表現力等〕

- ◆ 3 二 目的や意図に応じて、理由を明確にしなが、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することについては、課題がある。(54.2%、-2.4)

### 読むこと〔思考力、判断力、表現力等〕

- ◇ 2 一 文章全体の構成を捉え、内容の中心となる事柄を把握することについては、相当数の児童ができています。(82.7%、+5.1)
- ◆ 2 三 目的に応じ、文章と図表とを結び付けて必要な情報を見付けることについては課題がある。(40.8%、+6.4)
- ◆ 2 四 目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約することについては課題がある。(37.3%、+7.6)

### 言葉の特徴や使い方に関する事項〔知識及び技能〕

- ◇ 2 二 思考に関わる語句の使い方を理解し、話や文章の中で使うことについては、相当数の児童ができています。(90.3%、+2.8)
- ◆ 3 三 (1) 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことについては課題がある。  
ウ つみ重ね(49.3%、-5.1)
- ◆ 3 三 (2) オ 文における修飾と被修飾との関係を捉えることについては、課題がある。(45.0%、-1.4)

### ○授業改善に向けて

#### 話すこと・聞くこと ○資料を活用し、考えが伝わるように表現を工夫する指導の充実

発表を見合ったり、話したり聞いたりしている様子を撮影したりして客観的に捉えられるようにすることが効果的である。その際、表現を工夫するには、目的や意図に応じ、どのような資料を活用すればよいかを考えた上で、着目して欲しい部分や、わかりやすく伝えるための説明の内容や表現について検討することが重要である。

#### 書くこと ○目的や意図に応じ、考えが伝わるように書き表し方を工夫する指導の充実

自分の考えとその理由や事例等との関係性が明確であるか、事例が客観的な事実裏付けられているかなどを確認し、自分の考えを深められるようにすることが重要である。またその際には、詳しく書くのがよいか、簡単に書くのが良いか等を目的に応じて判断して書くこと、感想や意見と事実とを区別して書くことができるように指導することも大切である。

#### 読むこと ○目的に応じ、文章と図表等を結び付けるなどして必要な情報を見付ける指導の充実

文章中の図表等が、文章のどの部分と結び付くのかを考えながら読み、文章と図表等との関係を明確に捉えられるようにすることが大切である。またその際、目的に応じて必要な情報に着目し、それらを結び付けて内容を理解することができるように指導することが重要である。

#### 言葉の特徴や使い方に関する事項

##### ○文の中の修飾と被修飾との関係を捉える指導の充実

例えば「書くこと」の領域の推敲の学習過程で、修飾や被修飾との関係に気をつけて文章を整える等、文中の言葉の関係に気を付けられるよう指導することが考えられる。読み手の立場に立って、自分の言葉の使い方を確認する習慣を身に付けることが重要である。

##### ○漢字を文や文章の中で正しく使う指導の充実

読み方や字形に注意して繰り返し練習するだけでなく、自分が書いた文章を読み返す中で正しい使い方を習得できるように指導を工夫したり、必要に応じて漢字を使って文や文章を書く機会を設定したりすることが大切である。また日常生活で定着を図っていくことも重要である。

## 中学校 国語

### ○調査問題の趣旨・内容

学習指導要領（平成20年告示）に示されている「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」（3領域1事項）に基づき、その全体を視野に入れながら中心的に取り上げるものを精選して出題している。なお、中学校第2学年までの内容となるようにしている。

（例）■ 参加者の誰がどのようなことについて発言するとよいかと、そのように考えた理由を書く。

■ 意見文の下書きの構成の工夫について、自分の考えを書く。

■ 「吾輩」が「黒」をどのように評価しどのような接し方をしているかと、そのような接し方をどう思うかを書く。

■ 事前に確かめておきたいことについて相手の失礼のないように書く。

### ○全体の傾向

#### ・学習指導要領の領域等ごとの傾向

平均正答率は、「話すこと・聞くこと」では 81.2%、「書くこと」では 59.2%、「読むこと」では 51.6%、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」では 76.7%である。全ての領域等で全国を上回った。

#### ・設問ごとの傾向

14問全てにおいて平均正答率が全国を上回った。全国との差が5ポイント以上あった設問はない。

### ○学習指導要領の領域等ごとの結果の概要

#### 話すこと・聞くこと

- ◇ 1一 話合いの話題や方向を捉えることについては、相当数の生徒ができています。(90.6%、+0.9)
- ◇ 1二 質問の意図を捉えることについては、相当数の生徒ができています。(93.4%、+0.9)
- ◆ 1三 話合いの話題や方向を捉えて、話す内容を考えることについては課題がある。(59.6%、+2.5)

#### 書くこと

- ◆ 2一 書いた文章を読み直し、語句や文の使い方、段落相互の関係に注意して書くことについては、課題がある。(27.2%、+2.4)

#### 読むこと

- ◆ 3一 文脈の中における語句の意味を理解することについては、課題がある。(47.7%、+4.0)
- ◆ 3四 文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えをもつことについては、課題がある。(23.1%、+2.6)

#### 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

- ◇ 4一 文脈に即して漢字を正しく読むことについては相当数の生徒ができています。
  - ① 伸ばして(97.7%、+0.2)
  - ② 詳細(90.3%、+1.5)
- ◆ 4三 相手や場に応じて敬語を適切に使うことについては課題がある。(41.5%、+1.2)

## ○授業改善に向けて

### 話すこと・聞くこと

#### ○話し合いを効果的に進め、互いの発言を踏まえて、考えをまとめたり広げたり深めたりする指導の工夫

授業においては、例えば、目的に沿って互いの考えを伝え合ったり生かし合ったりする話し合いや議論等を通して指導することになる。その中では、多くの発言により考えを広げていく段階、発言の内容を整理しながら考えをまとめる段階等、どの段階においても、何についてどのような目的で話し合っているか等、目指していることを意識し、話題を意識しながら経過を捉えて行うように指導することが重要である。また、話し合いの様子を動画で撮影し、発言の仕方や内容を振り返り、検討するような活動を設定することも効果的である。

### 書くこと

#### ○自分が書いた文章について、読み手の立場に立って捉え直し、分かりやすい文章に整える指導の工夫

目的や意図に応じて分かりやすい文章にするためには、読み手の立場に立って文章を整えることができるよう指導することが必要である。例えば、自分の書いた文章が、考えを伝えたり印象づけたりする上でどのように効果を発揮しているかを確かめる等の学習活動が考えられる。その際は、表記や語句の使い方、叙述の仕方、表現の効果等を確かめるように指導するとともに、説明や具体例、描写などについての効果を検討し、誤解のない表現やより効果的な表現等、分かりやすく伝わりやすい文章に整えていくよう指導していくことが大切である。

### 読むこと

#### ○文章の内容を理解したり自分の考えを形成したりする指導の工夫

文脈における語句の意味を理解しながら文学的な文章を読むためには、場面展開、登場人物の関係や心情の変化、行動や状景の描写等に気を付けて読むように指導することが大切である。例えば、文章を読んで新しく知った言葉を取り上げ、辞書にある様々な意味から文脈上の意味を捉える活動をし、語句の辞書的な意味を踏まえた上で文脈における意味を捉え、その語句が文章中で果たしている役割を考えるような指導の工夫が考えられる。

また、文学的な文章を読んで自分の考えをもつためには、読み進めてきた学習過程を通して理解したことを説明したり、他の人の考えやその根拠等を知ったりするように指導の工夫をする必要がある。その中で、自分が精査・解釈したことを振り返り、自分の考えを確かなものにしていくことができるよう指導していくことが重要である。

### 言葉の特徴や使い方に関する事項

#### ○敬語等の相手や場に応じた言葉遣いを理解し、適切に使う指導の工夫

授業においては、例えば、手紙や電子メールを書く等、相手や媒体に応じて書く学習活動等が考えられる。その際、自分の発信した情報がどのように相手に受け止められるかを考えたり、相手の状況や媒体の特性等を考えたりするように指導することが重要である。

また、言葉遣いについては、敬語を含め、広く相手や場に応じた言葉遣いについて指導することが大切である。

※「授業改善に向けて」では、今後の指導のために平成29年告示の学習指導要領の領域・内容に基づき記載。

## 小学校 算数

### ○調査問題の内容

学習指導要領における、「数と計算」、「図形」、「測定」、「変化と関係」、「データの活用」の各領域に示された指導内容をバランスよく出題している。なお、小学校第5学年までの内容となるようにしている。

- (例) ■ 二つのコースの道のりの差の求め方と答えを書く。
- 直角三角形を組み合わせた図形の面積について分かることを選ぶ。
  - 500mを歩くのに7分間かかることを基に、1000mを歩くのにかかる時間を書く。
  - 「114」は二次元の表のどこに入るかを選ぶ。

### ○全体の傾向

#### ・学習指導要領の領域ごとの傾向

領域ごとの平均正答率は、「数と計算」では65.9%、「図形」では60.7%、「測定」では76.3%、「変化と関係」では79.0%、「データの活用」では80.1%である。全ての領域において全国を上回った。

#### ・設問ごとの傾向

算数では全16問中15問で全国平均を上回った。全国との差が5ポイント以上である設問は以下の通りである。

- △1(3) 二つの速さを求める式の意味について、正しいものを選ぶ(62.7%、+6.9)
- △3(3) 「114」は二次元の表のどこに入るかを選ぶ(75.0%、+7.5)
- △3(4) 帯グラフから、割合の違いが、一番大きい項目を選び、その項目と割合を書く  
(58.1%、+6.1)
- △3(5) 5年生と6年生の読みたい本と、多くの5年生と6年生に読まれている本を調べるために、適切なデータを選ぶ(79.4%、+5.5)
- △4(2) 8人に4Lのジュースを等しく分けるときの一人分のジュースの量を求める式と答えを書く(61.4%、+5.9)

### ○学習指導要領の領域ごとの結果の概要

#### 数と計算

- ◇4(1) 示された除法の結果について、日常生活の場面に即して判断することは、相当数の児童ができている。(85.4%、+2.4)
- ◆4(3) 小数を用いた倍についての説明を解釈し、他の数値の場合に適用して、基準量を1としたときに比較量が示された小数に当たる理由を記述することについては、課題がある。(52.5%、+1.0)

#### 図形

- ◆2(1) 三角形の面積の求め方における理解については、課題がある。(57.6%、+2.5)
- ◆2(3) 複数の図形を組み合わせた平行四辺形について、図形を構成する要素などに着目し、図形の構成の仕方を捉えて、面積の求め方と答えを記述することについては、課題がある。(50.9%、+4.9)

#### 測定

- ◇1(4) 条件に合う時刻を求めることについては、相当数の児童ができている。  
(90.7%、+1.5)

## 変化と関係

- ◇ 1 (2) 速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係について考察することについては、相当数の児童ができています。(89.2%、+2.5)
- ◇ 1 (5) 速さと道のりを基に、時間を求める式に表すことについては、相当数の児童ができています。(85.0%、-0.1)

## データの活用

- ◇ 3 (1) 棒グラフから、数量を読み取ることについては、相当数の児童ができています。(96.3%、+0.5)
- ◇ 3 (2) 棒グラフから、項目間の関係を読み取ることについては、相当数の児童ができています。(91.8%、+1.1)
- ◆ 3 (4) 帯グラフで表された複数のデータを比較し、示された特徴をもった項目とその割合を記述することについては、課題がある。(58.1%、+6.1)

## ○授業改善に向けて

### 数と計算

○小数を用いた倍の意味について、数の表し方の仕組みや数を構成する単位に着目して理解できるようにする指導の充実

整数を用いた倍の意味を捉え直し、小数を用いた倍についても、基準量を1としたときに比較量がいくつに当たるかという意味について理解できるようにすることが重要である。その際、数の表し方の仕組みや数を構成する単位に着目できるようにすることが大切である。

### 図形

○図形の構成する要素などに着目し、面積の求め方について筋道を立てて説明できるようにする指導の充実

図計を構成する要素などに着目し、面積を求めようとする図形の辺の長さや底辺と高さの関係を捉え、面積の求め方について筋道を立てて説明できるようにすることが重要である。その際、求積のために、必要な情報を図形から選び出す活動などを取り入れることが考えられる。

### 変化と関係

○異種の二つの量の割合として捉えられる数量の比べ方や表し方について理解できるようにする指導の充実

速さを比べる場合には、伴って変わる二つの数量の関係に着目し、それらの関係を用いたり、単位量当たりの大きさの意味及び表し方を理解し、単位量当たりの大きさをを用いて比べたりすることができるようにすることが重要である。その際、速さを求める除法の式と商の意味を理解できるようにすることが大切である。

### データの活用

○統計的に問題解決するために、データを分類整理し、データの特徴や傾向を読み取ることができるようにする指導の充実

身の回りの事象について、その事象の因果関係や傾向を漠然と捉えるだけでなく、データに基づいて判断する統計的な問題解決の方法を知り、その方法で考察していくことができるようにすることが重要である。その際、目的に応じて、データを集め、観点を決めて分類整理し、表やグラフからデータを集めるべきかを判断できるようにすることが大切である。また、自分たちが出した結論について多面的に捉え考察できるようにすることも大切である。

○調査問題の内容

学習指導要領（平成20年告示）における、「数と式」、「図形」、「関数」、「資料の活用」の各領域に示された指導内容をバランスよく出題している。なお、中学校第2学年までの内容となるようにしている。

（例） ■ 数量の関係を一元一次方程式で表す。

- 四角で四つの数を囲むとき、四つの数の和はいつでも4の倍数になることの証明を完成する。
- 四角形A B C Eが平行四辺形になることを、平行四辺形になるための条件を用いて説明する。
- 与えられた表やグラフを用いて、2分をはかるために必要な砂の重さを求める方法を説明する。
- 二つの分布の傾向を比べるために相対度数を用いることの前提となっている考えを選ぶ。
- 「日照時間が6時間以上の日は、6時間未満の日より気温差が大きい傾向にある」と主張できる理由を、グラフの特徴を基に説明する。

○全体の傾向

・学習指導要領の領域ごとの傾向

領域ごとの平均正答率は、「数と式」では67.3%、「図形」では55.5%、「関数」では57.1%、「資料の活用」では53.7%である。「数と式」「図形」「関数」の領域においては全国を上回り、「資料の活用」においては全国と同程度であった。

・設問ごとの傾向

数学では全16問中12問で全国を上回った。全国との差が5ポイント以上である設問は以下の通りである。

- △6（2） 四角で4つの数を囲むとき、4つの数の和はいつでも4の倍数になることの説明を完成する。(66.9%、+5.1)
- △6（3） 四角で4つの数を囲むとき、四角で囲んだ4つの数の和がどの位置にある2つの数の和の2倍であるかを説明する。(35.9%、+5.6)

○学習指導要領の領域ごとの結果の概要

**数と式**

- ◇6（1） 問題場面における考察の対象を明確に捉えることについては、相当数の生徒ができています。(85.4%、+1.5)
- ◆6（3） 数学的な結果を事象に即して解釈し、事柄の特徴を数学的に説明することについては、課題がある。(35.9%、+5.6)

**図形**

- ◆9（1） 平行四辺形になるための条件を用いて、四角形が平行四辺形になることの理由を説明することについては、課題がある。(47.6%、+3.3)
- ◆9（3） ある条件下で、いつでも成り立つ図形の性質を見だし、それを数学的に表現することについては、課題がある。(33.1%、+4.3)

## 関 数

- ◇ 7 (1) 与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることについては、相当数の生徒ができています。(94.4%、+0.9)
- ◆ 4 関数の意味の理解については、課題がある。(47.8%、-0.2)
- ◆ 7 (2) 事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することについては、課題がある。(29.3%、+1.6)

## 資料の活用

- ◇ 5 与えられたデータから中央値を求めることについては、相当数の生徒ができています。(82.4%、-2.1)
- ◇ 8 (1) ヒストグラムからある階級の度数を読み取ることについては、相当数の生徒ができています。(84.8%、+1.8)
- ◆ 8 (2) 相対度数の必要性和意味を理解することについては、課題がある。(37.5%、+0.7)
- ◆ 8 (3) データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することについては、課題がある。(9.9%、-1.2)

## ○授業改善に向けて

### 数 と 式

#### ○数学的な結果を事象に即して解釈し、事柄の特徴を数学的に説明する活動の充実

数の性質について成り立つ事柄の特徴を数学的に説明することができるようにするために、文字を用いて表した計算結果を事象と関連付けて読み取る活動を充実することが大切である。また、解決の過程や結果を振り返り、数量や図形などの性質を見だし統合的・発展的に考察することができるようにすることが大切である。

### 図 形

#### ○ある条件の下で成り立つ事柄を見だし、それを数学的に表現する活動の充実

ある条件の下で図形を動かしたとき、常に成り立つ事柄を見だし、それを数学的に表現する活動を充実することが大切である。その際、図形の構成要素に着目するなどして、いつでも成り立つ事柄を見いだす場面を設定し根拠を明確にして説明することができるようにすることが大切である。

### 関 数

#### ○関数の意味を理解するために、二つの数量について、変化や対応の様子に着目してその関係を的確に捉える活動の重視

関数の意味を理解するために、具体的な事象の中から伴って変わる二つの数量を取り出し、それらの関係を見いだす活動を重視することが大切である。その際、二つの数量の変化や対応の様子に着目し、独立変数と従属変数との違いを考察する場面を設定することが考えられる。

### データの活用

#### ○判断の理由を説明するために、データの傾向を的確に捉える活動の充実

日常生活や社会における問題を取り上げ、その問題の解決のために収集したデータの傾向を的確に捉える活動を充実することが大切である。その際、データを整理したグラフの形から分布の特徴を視覚的に捉えたり、代表値を求めて比較したりするなど、数学的な表現を用いて判断の理由を説明することが大切である。

※「授業改善に向けて」では、今後の指導のために、平成29年告示の学習指導要領の領域・内容に基づき記載。

## ② 学習や生活習慣などに関する児童生徒質問紙調査

「児童生徒質問紙調査」の概要は以下に示すとおりであるが、経年変化を見るために、小数点以下第一位までの数値で示している。特に記載ある場合を除き、数値には「どちらかといえば当てはまる」と回答した割合も含めている。

また、全国に対して±5ポイントの範囲は有意差が認められないとする範囲であり、ほぼ同程度として示す。なお、令和2年度の調査は全て実施していないので、欄を設けていない。

### 〈学習に対する興味・関心や授業の理解度等〉 国語

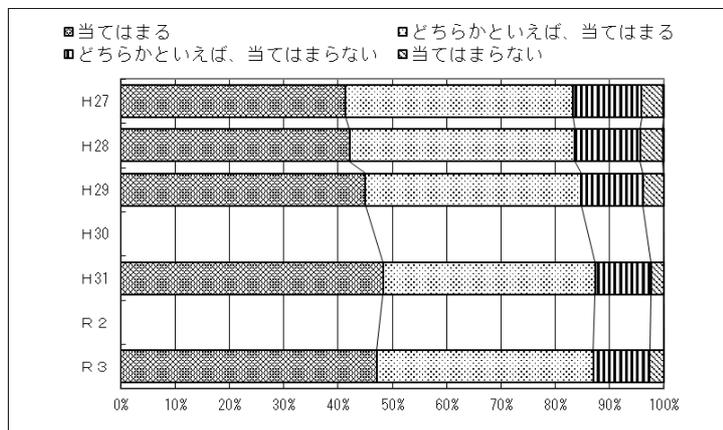
#### 【小学校】

質問項目	H27	H28	H29	H30	H31	R 3	全国
国語の授業の内容がよく分かる。	83.2%	83.5%	84.5%	—	87.2%	86.9%	84.2%
国語の勉強は好き。	63.2%	61.6%	64.1%	—	66.6%	60.6%	58.4%
国語の勉強は大切だと思う。	92.5%	91.8%	91.6%	—	94.4%	94.8%	93.2%
国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う。	88.4%	89.1%	88.0%	—	92.0%	93.3%	91.8%

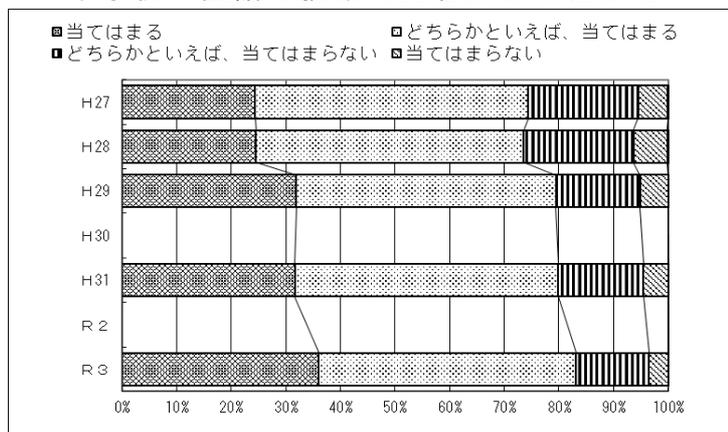
#### 【中学校】

質問項目	H27	H28	H29	H30	H31	R 3	全国
国語の授業の内容がよく分かる。	74.2%	73.5%	79.1%	—	79.8%	83.0%	80.1%
国語の勉強は好き。	62.5%	60.8%	66.1%	—	64.1%	63.9%	60.8%
国語の勉強は大切だと思う。	88.9%	88.0%	89.2%	—	91.7%	93.2%	91.6%
国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う。	82.6%	82.7%	83.6%	—	89.2%	92.0%	88.7%

#### 小学校 国語の授業の内容がよく分かる



#### 中学校 国語の授業の内容がよく分かる



全国と比較すると、これらの質問項目では、小学校、中学校ともに、すべての質問項目で全国を上回った。いずれも全国との差は±5ポイントの範囲内である。

平成27年度と比較すると、中学校では、「国語の授業の内容がよく分かる」が8.8ポイント高くなった。それ以外の項目についてもすべて高くなっている。小学校では「国語の授業の内容がよく分かる」が3.2ポイント高くなった。「国語の勉強は好き」が低くなったが、その他の2項目については高くなった。

今後も「分かる授業」の実現に向けて言語活動の質の向上を図り、授業改善に取り組むことが必要である。また、引き続き、児童生徒が国語を学ぶ意義や言葉を扱うことのよさを実感しながらより主体的に学べるよう、指導の工夫に取り組むことが重要である。

## 《学習に対する興味・関心や授業の理解度等》 算数・数学

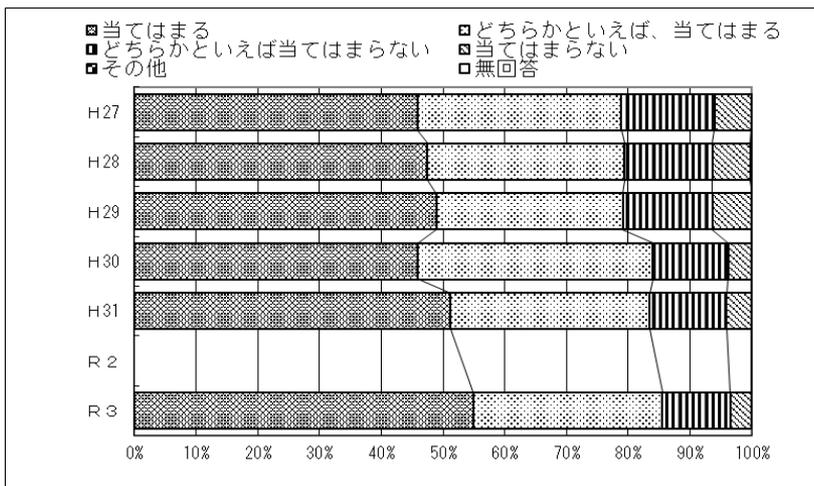
### 【小学校】

質問項目	H27	H28	H29	H30	H31	R 3	全国
算数の授業の内容がよく分かる。	78.8%	79.3%	78.6%	84.0%	83.4%	85.5%	84.6%
算数の勉強は好き。	63.8%	66.1%	65.5%	65.3%	69.2%	67.8%	67.8%
算数の勉強は大切だと思う。	93.2%	92.7%	91.7%	93.0%	94.6%	95.1%	93.8%
算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う。	90.0%	90.0%	88.3%	90.6%	93.1%	93.5%	92.6%

### 【中学校】

質問項目	H27	H28	H29	H30	H31	R 3	全国
数学の授業の内容がよく分かる。	70.6%	69.8%	72.5%	74.2%	74.5%	78.5%	74.6%
数学の勉強は好き。	55.1%	56.4%	59.2%	56.5%	59.4%	62.2%	59.1%
数学の勉強は大切だと思う。	79.2%	78.0%	80.2%	82.5%	82.4%	85.0%	84.1%
数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う。	67.3%	67.3%	68.6%	68.9%	73.0%	75.5%	74.6%

#### 小学校 算数の授業の内容がよく分かる

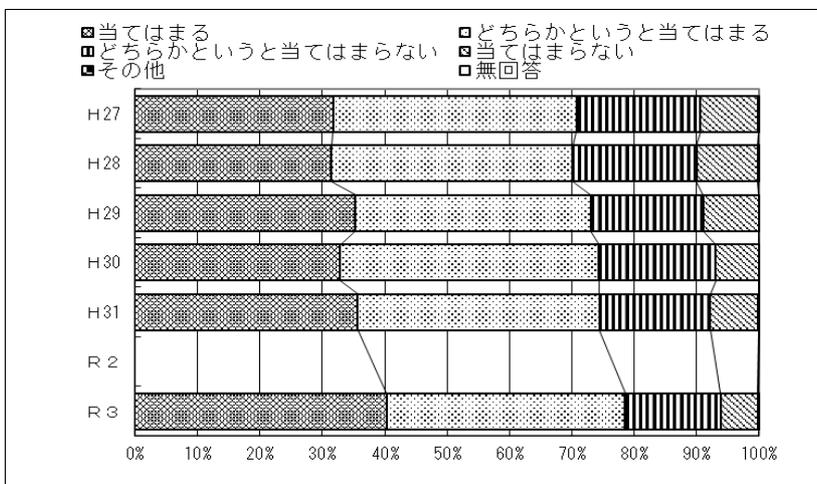


全国と比較すると、小学校では、「算数の勉強は好き」の質問項目で同値であり、その他全ての質問項目で全国を上回った。中学校では、すべての質問項目において全国を上回った。いずれも全国との差は±5ポイントの範囲内である。

平成27年度と比較すると、中学校では、「数学の授業の内容がよく分かる」において7.9ポイント、「数学の勉強は好き。」において7.1ポイント、「数学の勉強は大切だと思う。」において5.8ポイント、「社会にでたときに役に立つ。」において8.2ポイント高くなった。小学校では「授業の内容がよく分かる。」において6.7ポイント、「算数の勉強は好き」において4ポイント高くなった。

今後とも、小中学校ともに一人一人が「内容がよく分かる」授業づくりを継続して取り組むとともに、中学校では「授業で学習したことが将来、社会に出たときに役に立つ」と思えるような、授業づくりを進めていく必要がある。

#### 中学校 数学の授業の内容がよく分かる



## 《規範意識、自己有用感等》

### 【小学校】

質問項目	H27	H28	H29	H30	H31	R 3	全国
自分にはよいところがあると思う。	77.4%	79.0%	79.9%	87.3%	83.1%	79.1%	76.9%
将来の夢を持っている。	84.6%	83.1%	83.9%	84.6%	81.2%	77.3%	80.3%
いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う。	95.7%	95.9%	95.7%	96.9%	97.2%	96.9%	96.8%
人の役に立つ人間になりたいと思う。	93.7%	93.2%	92.6%	95.4%	95.4%	96.0%	95.5%
※ 自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしている。	95.5%	94.8%	96.0%	—	95.8%	86.4%	84.3%
難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している。	77.7%	78.0%	78.8%	—	79.3%	73.0%	70.9%

### 【中学校】

質問項目	H27	H28	H29	H30	H31	R 3	全国
自分にはよいところがあると思う。	67.6%	69.1%	70.4%	80.0%	75.0%	76.4%	76.2%
将来の夢を持っている。	69.6%	67.8%	68.4%	70.3%	67.6%	65.2%	68.6%
いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う。	91.7%	91.6%	91.5%	94.1%	93.9%	95.9%	95.9%
人の役に立つ人間になりたいと思う。	91.8%	90.9%	90.9%	93.7%	93.4%	94.6%	95.0%
※自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしている。	93.8%	94.5%	94.8%	—	93.8%	84.5%	84.2%
難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している。	67.2%	69.4%	71.7%	—	70.2%	66.0%	65.9%

※ H31 までは、「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある。」

規範意識、自己有用感等のこれらの質問項目について全国と比較するとほぼ同程度である。

「自分にはよいところがある」との回答は、平成 27 年度と比較すると小学校は 1.7 ポイント、中学校は 8.8 ポイント高くなった。全国と比較するとやや上回った。

「将来の夢をもっている」と回答した児童生徒は、平成 27 年度との比較、全国との比較ともやや下回っている。「人の役に立つ人間になりたい」「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している」は全国と比較するとほぼ同程度で肯定的な回答が多い。このことから、児童生徒が様々な役割を担い、取り組む機会を数多く設定し、結果だけでなく過程の努力についても一人一人のよさや可能性を認め励ますことが大切である。今後も学級・学校生活において自分自身を見つめ、将来の生き方についても考えられる活動を継続することが必要である。

＜参考＞ 令和 2 年度実施 川崎市立小中学校学習状況調査（小学 5 年生、中学校 2 年生で実施。）

- ・国語の授業の内容がよく分かる。 小学校 5 年生 91.8% 中学校 2 年生 89.2%
- ・国語の勉強は好き。 小学校 5 年生 66.4% 中学校 2 年生 67.1%
- ・国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う。 小学校 5 年生 93.9% 中学校 2 年生 92.2%
- ・算数（数学）の授業の内容がよく分かる。 小学校 5 年生 86.7% 中学校 2 年生 78.7%
- ・算数（数学）の勉強は好き。 小学校 5 年生 68.5% 中学校 2 年生 61.6%
- ・算数（数学）の授業で学習したことは、将来社会に出たときに役に立つと思う。 小学校 5 年生 95.7% 中学校 2 年生 83.9%
- ・自分にはよいところがあると思う。 小学校 5 年生 76.1% 中学校 2 年生 72.6%
- ・将来の夢をもっている。 小学校 5 年生 82.2% 中学校 2 年生 66.0%
- ・難しいことでも失敗を恐れなくて挑戦している。 小学校 5 年生 78.5% 中学校 2 年生 66.4%

## 《学習習慣等》

### 【小学校】

質問項目	H27	H28	H29	H30	H31	R 3	全国
家で、自分で計画を立てて勉強している。	60.6%	59.5%	62.6%	66.4%	69.2%	72.4	74.0%
学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たり1時間以上勉強をする。	58.6%	59.0%	61.2%	63.2%	63.6%	61.6	62.5%

### 【中学校】

質問項目	H27	H28	H29	H30	H31	R 3	全国
家で、自分で計画を立てて勉強している。	45.6%	46.5%	50.3%	49.1%	46.3%	63.4	63.5%
学校の授業時間以外に、普段(月～曜日)、1日当たり1時間以上勉強をする。	70.2%	68.9%	71.1%	72.5%	72.6%	80.5	75.9%

学習習慣等のこれらの質問項目について全国と比較すると、同程度であった。

平成27年と比較すると、小学校では「家で、自分で計画を立てて勉強している」において11.8ポイント、「学校の授業時間以外に1時間以上勉強している」では3ポイント高くなった。中学校では、「家で、自分で計画を立てて勉強している」において17.8ポイント、「学校の授業時間以外に1時間以上勉強している」では10.3ポイント高くなっている。

小学校、中学校ともに「学校の授業時間以外に1時間以上勉強している」では、小学校で約6割、中学校で約8割であるが、家庭で、自分で学習の計画を立て、継続的に、目標をもって取り組めるよう、家庭学習の一層の充実が必要である。

## 《主体的・対話的で深い学びの視点による学習指導改善に関する取組状況等》

### 【小学校】

質問項目	H27	H28	H29	H30	H31	R 3	全国
5年生までに受けた授業では課題の解決に向けて、自分で考え、自分から進んで取り組んでいたと思う。	—	—	—	80.7%	80.4%	82.1%	78.2%
5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していたと思う。	—	68.4%	70.9%	66.6%	68.6%	69.0%	63.5%
学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う。	69.6%	69.6%	70.9%	80.5%	77.8%	82.5%	78.8%
総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいると思う。	73.9%	72.3%	78.3%	—	74.2%	80.7%	73.0%
学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいると思う。	—	—	—	—	74.5%	75.7%	73.5%

【中学校】

質問項目	H27	H28	H29	H30	H31	R3	全国
1, 2年生までに受けた授業では課題の解決に向けて、自分で考え、自分から進んで取り組んでいたと思う。	—	—	—	74.7%	77.3%	84.6%	81.0%
1, 2年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していたと思う。	—	62.0%	64.8%	58.5%	62.9%	68.7%	62.0%
生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う。	64.3%	66.9%	68.5%	76.7%	73.5%	79.4%	77.8%
総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいると思う。	64.5%	63.8%	71.6%	—	68.5%	79.3%	70.2%
学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいると思う。	—	—	—	—	65.1%	71.7%	69.8%

全ての質問項目において、全国と比較すると上回っている。「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から進んで取り組んでいた」では、小学校は3.9ポイント、中学校は3.6ポイント、「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」では、小学校は3.7ポイント、中学校は1.6ポイント、「自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していた」では、小学校は5.5ポイント、中学校は6.7ポイント上回っている。各教科等で自分の考えを工夫して発表していると感じている児童生徒が多く、今後も引き続き、課題の解決を目指した主体的な学習や、自分の考えを深めたり広げたりできるような対話的な活動の充実させていくことが必要である。

総合的な学習の時間に関する回答は全国と比較すると小学校は7.7ポイント、中学校は9.1ポイント上回っている。今後も自分で課題を立て、情報を整理して発表するなど探究的な学習を継続することが必要である。「学級活動における学級での話し合いを生かして、「今、自分が努力すべきこと」を決めて取り組んでいると思う。」との回答も小学校は2.2ポイント、中学校は1.9ポイント上回っている。今後も学級活動(2)(3)の授業において、生活上の課題を改善する話し合いを生かし、児童生徒が具体的な目標を意思決定して、実践を継続することが重要である。

<参考>

令和2年度実施 川崎市立小中学校学習状況調査(小学5年生、中学校2年生で実施)

・学校のある日、家で1時間以上勉強している。 小学校5年生 50.8% 中学校2年生 44.5%

## 〈基本的な生活習慣等〉

### 【小学校】

質問項目	H27	H28	H29	H30	H31	R3	全国
朝食を毎日食べている。	94.9%	95.0%	94.5%	93.8%	94.5%	94.0%	94.9%
毎日、同じくらいの時刻に寝ている。	77.6%	79.1%	78.6%	76.5%	80.4%	81.2%	81.2%
毎日、同じくらいの時刻に起きている。	89.4%	89.8%	89.5%	87.7%	90.9%	90.1%	90.4%

### 【中学校】

質問項目	H27	H28	H29	H30	H31	R3	全国
朝食を毎日食べている。	91.1%	90.4%	90.8%	88.7%	89.8%	90.8%	92.8%
毎日、同じくらいの時刻に寝ている。	71.8%	72.6%	73.4%	71.6%	74.3%	76.3%	79.8%
毎日、同じくらいの時刻に起きている。	90.2%	90.6%	91.2%	88.6%	90.1%	90.6%	92.7%

基本的な生活習慣のこれらの質問項目について全国と比較すると、小学校、中学校ともにほぼ同程度である。平成27年度と比較すると、「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」と回答した児童生徒は、小学校は3.6ポイント、中学校は4.5ポイント高くなっている。

このことから、児童生徒の基本的な生活習慣が確立してきていることがうかがえる。

## 〈新型コロナウイルス感染症の影響〉

### 【小学校】

質問項目	H27	H28	H29	H30	H31	R3	全国
★多くの学校が休校していた期間中、勉強について不安を感じた。	—	—	—	—	—	50.9%	55.2%
★休校していた期間中、計画的に学習を続けることができた。	—	—	—	—	—	66.4%	64.6%
★休校していた期間中、規則正しい生活を送っていた。	—	—	—	—	—	63.9%	63.1%

### 【中学校】

質問項目	H27	H28	H29	H30	H31	R3	全国
★多くの学校が休校していた期間中、勉強について不安を感じましたか	—	—	—	—	—	63.9%	62.8%
★休校していた期間中、計画的に学習を続けることができた。	—	—	—	—	—	38.8%	37.6%
★休校していた期間中、規則正しい生活を送っていた。	—	—	—	—	—	46.5%	48.4%

★は新規項目

新規項目である「新型コロナウイルスの影響」について、「多くの学校が休校していた期間中、勉強について不安を感じた」と回答した児童生徒は、小学校では全国平均を下回ったものの、中学校では全国平均を上回った。「休校していた期間中、計画的に学習を続けることができた。」では、小学校、中学校ともに全国平均を上回った。

## 《 I C T を活用した学習状況 》

### 【小学校】

質問項目	H27	H28	H29	H30	H31	R 3	全国
5年生までに受けた授業で、コンピュータなどの I C T を週 1 回以上使用している。	—	—	—	—	26.0%	28.4%	40.1%
★学校で、コンピュータなどの I C T 機器を、他の友達と意見を交換したり、調べたりするために週 1 回以上使用している。	—	—	—	—	—	47.5%	39.0%
★学習の中でコンピュータなどの I C T 機器を使うのは勉強の役に立つと思う。	—	—	—	—	—	95.2%	94.5%

### 【中学校】

質問項目	H27	H28	H29	H30	H31	R 3	全国
1, 2 年生の時に受けた授業で、コンピュータなどの I C T を週 1 回以上使用している。	—	—	—	—	40.1%	36.6%	33.4%
★学校で、コンピュータなどの I C T 機器を、他の友達と意見を交換したり、調べたりするために週 1 回以上使用している。	—	—	—	—	—	47.7%	34.8%
★学習の中でコンピュータなどの I C T 機器を使うのは勉強の役に立つと思う。	—	—	—	—	—	93.9%	93.2%

★は新規項目

新規項目である I C T を活用した学習状況については、「5年生までに受けた授業で、コンピュータなどの I C T を週 1 回以上使用している。」と回答した児童生徒は、小学校は全国平均を下回ったものの、中学校は上回った。「学校で、コンピュータなどの I C T 機器を、他の友達と意見を交換したり、調べたりするために週 1 回以上使用している。」と回答した児童生徒は、全国と比較すると小学校は 8.5 ポイント、中学校は 12.9 ポイント高くなった。

#### <参考>

令和 2 年度実施 川崎市立小中学校学習状況調査 (小学 5 年生、中学校 2 年生で実施)

・朝食を毎日食べている。

小学校 5 年生 94.5% 中学校 2 年生 90.3%

## 《地域や社会に関わる活動の実施状況等》

### 【小学校】

質問項目	H27	H28	H29	H30	H31	R3	全国
今住んでいる地域の行事に参加している。	53.1%	55.3%	47.4%	52.5%	57.0%	45.0%	58.1%
地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある。	45.0%	—	42.7%	52.5%	55.8%	54.2%	52.4%

### 【中学校】

質問項目	H27	H28	H29	H30	H31	R3	全国
今住んでいる地域の行事に参加している。	34.3%	35.0%	31.9%	38.6%	39.9%	31.2%	43.7%
地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある。	27.5%	—	29.6%	35.7%	35.4%	39.5%	43.8%

「今住んでいる地域の行事に参加している」と回答した児童生徒は、全国と比較すると、小学校は13.1ポイント、中学校は12.5ポイント下回っている。

平成27年度と比較すると、「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある。」では、小学校は9.2ポイント、中学校は12ポイント上回っている。

今後も、今住んでいる地域の行事への参加を促すことで、地域や社会で起こっている問題や出来事に関心が高まっていく指導の充実を図ることが大切である。